

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

当院における保存的治療を選択した上部消化管穿孔に対する早期食事開始の検討

[研究責任者] 岡崎市民病院 消化器外科 本田倫代

[研究の背景]

胃、十二指腸潰瘍の穿孔に対する治療方針については 2015 年に発刊された消化性潰瘍診療ガイドラインで明確にされている。当院でも急性汎発性腹膜炎の所見がない場合は手術をせずに絶飲食と胃酸分泌抑制（プロトンポンプ阻害薬を使用）にて保存的に治療を行うことが多い。しかし、保存的治療を選んだ場合、食事開始時期に関しては統一した見解がなく、論文による報告も少ない。当院では既存の保存的治療に関する報告を参考にして 2017 年から入院後 5 日目から飲水を開始することとしている。運用開始から 5 年たち、その治療成績について検討する。

[研究の目的]

当院において上部消化管穿孔の保存的治療に関してはクリニカルパス(入院中の治療や検査に関する計画書)を適応し早期に食事開始しており、その治療成績について検討する。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

上部消化管穿孔の患者さんで、西暦 2012 年 1 月 1 日から西暦 2021 年 12 月 31 日の間に外科にて入院治療を受けた方

●研究期間：西暦 2022 年 12 月 1 日から西暦 2023 年 10 月 31 日

●利用する検体、カルテ情報

検体：血液検査、上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)でえられた胃十二指腸粘膜の病理検査（通常の診療で使用した検査結果を使用し、研究のためだけの検査は行いません。）

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、上部消化管内視鏡検査、病理検査）、使用薬剤、入院期間、食事開始時期

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

消化器外科 本田 倫代

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913